発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番 ③3034番
編集兼発行人 山下 開
半年間1.200円 送料共

雇用も賃金も共に

県春闘共闘が決起集会

▼…福岡県春闘共闘会議（花田守議長）は、九日福岡の東公園で七八春闘決起集会を開き、政府・独占の支配に屈せずあくまで「雇用も賃金も」の決意で春闘をたたかい抜くことをきめた。

三万人の集会（三池からは主婦会員の十八人を含め、四十八人参加）にふくれあがり、しだいにもり上がってきた春闘の秘められたエネルギーを感じさせた。

全参加者は集会が終るとひき続いて市街をデモ行進したが、福岡県下の春闘もいよいよこれからという段階にさしかかった。【写真は、同決起集会の模様】

四山鉱で死亡災害起きる

会社の責任は重大

犠牲は払長の上田さん

無災害・負傷減運動をゆがめては「負傷かくし」にやっきになっている四山鉱（木村治鉱長）は、先ほど重大災害をひき起こして一人の坑内労働者の命を奪った。三池労組は会社の責任を追及するとともに故人の冥福を祈り、ただちにストライキをうち抗議した。

災害は三月三十一日の午後九時ごろ、四山鉱の上層西三十五添卸東三片払で起きた。

死亡したのは払採炭工の上田久行さん（51歳。荒尾市緑ケ丘敷島町二十七棟）で、故人には妻子のほかに老母もあるとか。

上田さんは右の払の払長として采配をふるほどの、優れた坑内労働者だった。

そのとき上田さんはシールド枠（五十二～六十九セット）の移設を終り、次の仕事にかかろうと払面のパンツアーコンベヤー脇に立ったとき、突如天井ぎわの岩（厚さ〇・三五、幅〇・九、長さ二・一メートル）がそげ落ちてき、それに肩から下が埋まり、胸部を圧迫されて死亡した。

同払は炭壁が軟弱といわれているのに裸天井の状態だったといいそれに枠が低いためシールド自走枠の安全間の通行が困難で、いきおい危険度の多い払面の側に立たなければならなかった。保安管理の前に重大問題が横たわっていることは、すでに早くからはっきりしていたわけで、それに目をつぶってきた会社・職制の責任は大きい。

三池炭鉱では、依然として死亡災害がうち続いている。昭和五十年に四人、五十一年と五十二年にそれぞれ二人ずつ、それに今年は桜も今からという絶好機だというのに早くも二人の命が坑底で奪われた。

三池労組は三日本紙号外を発行して、上田さんの命を奪った災害の事実を伝えるとともに、「人間の命を守る闘いに組織の違いはない。職場から命を守る声を大にし、安心して働ける三池炭鉱にするため闘おう」と呼びかけた。

×……　……×

各裁判の公判日程

会社の災害責任を追及する裁判の公判日程は、次の通りですからよろしく。

▼九・二八坑内火災裁判　五月二十四日午後一時。吉田証人（曙病院院長）に対する、原告＝組合側代理弁護士による主尋問。福岡地裁。

▼上村裁判　右同日午前十一時　原告の上村京子さんに対する本人調べ。福岡高裁。

▼大災害裁判　五月二十九日午前十時。福岡地裁で。

右のうち、上村裁判は終りに近づいた感じです。いっそうささえてゆきましょう。

× × × ×

春が来たが、続く暗い生活

子供の進学が悩み

大安売りの広告も関心なし

坑外勤務　S生

投稿

冷たい冬が過ぎて、今年も暖い春がやってきましたが、私にとっては低賃金の暗い生活が続いていきます。

桜の花が咲き、野山に生きる草木も青々と風にゆられて喜んでいるというのに。

今年こそは、春の陽ざしを浴びる人間として、いくらかでも生活を向上してしあわせになろうと、きびしいながら春闘へ燃えています。

自民党政府の政治・経済政策の失敗が積もり、各産業に働く者の首切りが広がり、中小企業は次々に倒産し、物価は年々上昇するばかりで下がることを知らず。春を裏切って蔓り空のこの世の中は、いつ晴れるともわかりません。

今私の家は、夫婦の共稼ぎでやっと家計をやりくりしています。それなのに新たに高校に入学する子供があります。現在では、高校どころか大学までというのが当然な時代ですから、子供に文句をいうこともできません。

でも父親の私は、職場が坑外だといっても、三池炭鉱入社以来勤続三十七年にもなるのに、その給料は二十五万（万とは出勤を表わす言葉）もでて総稼ぎ高がわずか十二万五千円位い。それでも高校には上げなければならないのです。

さて、子供の高校入学のための費用は、ざっと次の通りです。

受験料	二、〇〇〇円
入学金	一〇、〇〇〇円
振興会費	七五、〇〇〇円
教科書代	四、〇〇〇円
教科用具	三、五〇〇円

そのほかに、毎月納めなければならない校納金、教科には参考書や辞書が要り、メガネを一つ買ってやるのさえ二万円はかかるでしょう。子供の晴れの高校入学にさえ、頭悩まされる保護者です。

毎朝配られてくる新聞の中に、重たいほど商店の大安売りの広告が折り込まれていますが、どんなに安くてもそんなものには目をやる余裕もありません。毎日の生活を維持していくだけで必死です。

会社は、他産業の不況を理由にしながら、黒字にふれようとはせず、否、かくそうとしています。今までの事実でもわかるように、私たちが春闘でたとえ実力を行使して闘っても、要求にこたえる誠意は見せませんでした。重大災害をひき起こして、仲間の命をどれほど奪っても、見向きもしようとしない会社。

もう、先行妥結だとか、暁の妥結だとかいうことは絶対に許されません。苦しいときこそ働く仲間同志の団結で、春闘要求の完全獲得を果たしたいものです。

炭鉱から災害をなくし、私たち自身の命と生活を守るために、組織の別なく、みんなの団結で春闘要求を勝ち取りましょう。

JCへの回答突破へ

78春闘の足どり激し

実力行使がいよいよ集中する段階を迎えた七八春闘は、労働者の賃上げ要求を低額回答で押さえつけようとする政府・独占資本の攻撃をハネのけようと、その足どりに激しさを加えてきた。

注目のJC（金属労協。宮田義二議長。鉄鋼、造船、電機労連、自動車総連が参加）に対する資本側の回答は十三日に出されたものの、額は七千円（鉄鋼。四・二四%）から一万六百七十円（電機。七・八三%）までと低い。

したがって今後春闘は、消費者物価の上昇を大幅に下回ったJC回答の突破をめざしながら、激しい闘いとなるのは必至だ。

知恵のしぼりどころ

▼…四月は、入学・入園など子供の心身にとって環境変化の激しい月です。

緊張をできるだけといてやること。

とかく、よその子と比べて、「字が読めるか」「お返事ができるか」などと問題にし、またささいな失敗にも親はいらだちますが、親の不安やいらだちは子供に敏感に反映します。

「もう幼稚園だから、小学校だから」と、子供に何かむずかしい課題を押しつけ、それができなければ「ダメな子」などと思わずに、むしろ遊び道具や運動場や先生やたくさんのお友だちの話をして、子供にとって新しい世界がどんなに楽しいところか、確信を持たせましょう。

入学・入園する子供のため

▼…季節の変わり目であるため、カゼが多くなります。

敏感な子は自家中毒を起こしたりします。

この時期に病気で休んだり、遅刻したりすると、集団生活になじむ上で困難が生まれることがあります。少々のカゼなら、がんばって登校・登園させてもかまいません。

心の安定が、身体の健康を支えます。子供を信頼し、子供自身が新しい世界を進んで切り開いていくことに、親自身が確信をもつことです。（小児科医・児童精神科医＝渡辺久子。連合通信の記事によりました＝編集部）

◇　◇

メーデー来る

今年もメーデーがやってくる。今年で四十九回目。今年は、文字通りたたかいのなかで迎えることになりそう。

メーデーを迎える準備が、すでに大牟田・荒尾の両地評で始まっている。今年のメーデーは、労働者が、生活と民主主義、平和を守る決意を固めることとなろう。